

観光問題

問 県の滞在型支援に地形療法での連携は

答 提言は今後の参考にしたいと思います



伊藤 まゆみ 議員

【白馬村第4次総合計画
について】

問 観光における閑散期対策事業の支援内容は。

村長 閑散期でも、春は花、秋は紅葉といった自然の色彩が豊かな季節です。この魅力を外部に発信し、姫川源流福寿草祭りや、秋の国際トレイランなどの地域イベントを支援しています。

問 長期滞在観光充実のため、近隣市町村との協力的体制強化は。

村長 「白馬AIPS花三昧」は村内9、小谷村2の計11会場で実施し、また2次

交通対策として大町・白馬・小谷共同の北アルプス山麓アルペンライナー運行の取り組みも始めました。県の「山岳高原を活かした世界水準の滞在型観光地づくり研究事業」にこの3市村がモデル地区として選ばれたので、さらなる連携で滞在につながる観光地づくりを進めます。

問 この事業でローラースキーコース等の整備を検討する旨の答弁があったが、3市村の連携が必要ならば、

こういったスポーツ施設整備のコンセプトはどのようなものか。また、スポーツ合宿は夏場に集中し、通年での滞在型観光地を目指すのに無理があるのでは。

村長 県からの支援はハード事業が対象で、3市村

がそれぞれの予定表を出した方がよいということで、当村としてはグリーンスポーツの

利活用、ジャンプ台の改修が基本的構想です。しかし、まだ県からは具体的な内容が示されていないので、明確な回答は控えさせていただきます。

問 大町市ではドイツで行われている高山での医療（地形療法）を推進し、

県の研究会に提案すると聞いている。この療法は最低1週間必要とされ、団塊世代の中年をターゲットに、予防医療というコンセプトで閑散期の3市村連携が可能となる。また、日本でこの療法の中心的存在である教授を呼んでの勉強会を大町は検討している。その勉強会に職員を派遣するなど、当村も前向きに検討すべきと思うが。

村長 提言は、今後の村づくりに生かせる方向で考えてみたいとは思っています。

【村長の選挙公約について】

問 民間感覚を導入し改善された点は。

村長 民間感覚の導入により、限られた財源で最大の効果を図りましたが、行



冬のジャンプ台 平成26年 1月27日

政運営で村民サービスに与えるという意味合いでは、費用対効果で解決できない事もあります。

村長 退職金返上の意志に変更は。今でも変わっていません。